

説明事項（１） 令和元年度競技スポーツの推進について

山梨県スポーツ推進計画（令和元年度～5年度）抜粋

1 競技スポーツの意義

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の文化の一つです。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要なものであり人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有しています。

2 競技スポーツの推進

トップアスリートの活躍は、県民に夢や希望を与え、スポーツへの関心を高め、活力ある健全な社会形成に繋がることから、本県競技スポーツの競技力向上を図るため、ジュニア育成からトップレベルに至る体系的な人材養成システムの構築や、スポーツ環境の整備を図ります。

競技力の向上

◎ 現状と課題

- 国民体育大会において常時天皇杯20位台、900点を目標としています。そのため、各競技団体が「ジュニアアスリート・トータルサポート事業」をはじめとする強化事業（県外遠征・交流試合）に取り組み、県内選手の競技力向上を目指しています。
- 近年増加している新規の女子種目や競技人口の少ない競技種目は、児童・生徒が競技に触れる機会を増やし、競技人口を増加させる必要があります。
- 2巡目の国民体育大会に向けて、開催時に主力となるターゲットエイジを対象としたジュニア選手を育成し、次世代アスリートとして強化していく必要があります。
- 国民体育大会等で安定的に優秀な成績を収めるため、スポーツ関係団体等と連携を深め、優秀選手を対象とした強化を図る必要があります。
- 各競技団体において、一貫指導体制は確立してきたものの、少子化による競技人口の減少や指導者の高齢化などが進んでいます。
- 国民体育大会における監督の指導者資格が義務化されましたが、本県では約半数の競技団体において20代の有資格指導者がいないため、今後、指導者を確保する必要があります。
- 競技力向上には学校の運動部活動も大きな役割を担っているため、科学的、効果的なトレーニングを取り入れる必要があります。
- 近年、スポーツ関係者によるパワハラ・セクハラ行為や暴力行為等の問題が生じているため、クリーンでフェアなスポーツの推進を図る必要があります。
- 選手の競技力向上のためには、大会や強化練習会にスポーツドクターやアスレティックトレーナーを派遣して医・科学的な助言を行う必要があります。
- 選手・指導者を対象とした講習会を開催し、スポーツ事故やスポーツ傷害の防止、アンチドーピングの啓発を周知していく必要があります。
- 女性アスリートが活躍するためには、女性特有のコンディショニングや健康問題等の課題に取り組む必要があります。
- パラリンピックなどの大規模大会へ出場するパラアスリートに対して、競技力向上に向けた支援体制等の仕組みを構築していく必要があります。

◎ 具体的な方策

- 本県開催 2 巡目の国民体育大会に向け、開催時に主力となるジュニア選手をターゲットエイジと位置づけ、競技スポーツが体験できる機会を設けるなど、計画的・戦略的にジュニア選手の発掘・育成の取り組みを支援します。
- 国民体育大会の新規の女子種目に対応するため、女性ジュニア選手の育成、強化の取り組みを支援します。
- 競技人口の少ない競技種目に対し、ジュニア選手を発掘する機会を設けるとともに、発掘した選手の育成・強化の取り組みを支援します。
- トップレベルのアスリートを確保するため、県スポーツ協会や関係団体等と連携を図りジュニアから中長期的展望に立った一貫指導体制の充実を図ります。
- 若い世代の有資格指導者を確保するため、各競技団体に対して支援します。
- 中学校運動部活動において、専門的技術指導や科学的・効果的なトレーニングを充実させるため、教員の資質向上を支援します。
- パワハラ・セクハラ行為や暴力行為等の根絶に向けてクリーンでフェアなスポーツを推進するとともに、各競技団体のスポーツインテグリティの向上、コンプライアンスの徹底を図ります。
- 県スポーツ協会のスポーツ医・科学委員会と連携し、各競技団体に対して競技力向上のための情報分析など、医・科学的なサポートを行います。
- スポーツドクターやアスレティックトレーナーなどの専門家と連携し、スポーツ事故の防止や選手の発達段階に応じたスポーツ傷害の予防等に取り組みます。
- アンチドーピングを徹底するため、講習会等を開催し、情報提供や啓発を図ります。
- 女性アスリートの活躍を支援するため、選手、指導者、保護者に対して女性特有のコンディショニングの指導や健康問題などの情報提供を行います。
- パラリンピックなどを目指すパラアスリートの育成、強化の方法を検討していきます。

3 目標となる指標 (H30の現況：R5年の目標)

- (1) ターゲットエイジを対象とした発掘・育成事業実施している競技団体の割合
(36.6% : 100%)
- (2) 国民体育大会における天皇杯得点と順位
(803点、36位 : 900点 20位台)
- (3) 競技力向上に係る優秀な若手指導者を育成・強化している競技団体の割合
(24.4% : 100%)

4 推進事業

- ① 競技団体選手強化の支援
- ② 成年指定チームへの補助
- ③ 競技力向上支援体制の充実及び各競技団体への支援
- ④ 県企業スポーツ連絡協議会との連携
- ⑤ 県小中学校体育連盟への補助
- ⑥ 県高等学校体育連盟への補助
- ⑦ スポーツ医・科学の活用
- ⑧ スポーツの国際大会・全国大会等への協力
- ⑨ 国民体育大会への選手派遣
- ⑩ 「やまなしスポーツ賞」の授与
- ⑪ 競技力向上のための指導者の養成
- ⑫ 一貫指導体制の推進 (ジュニアアスリートの強化)